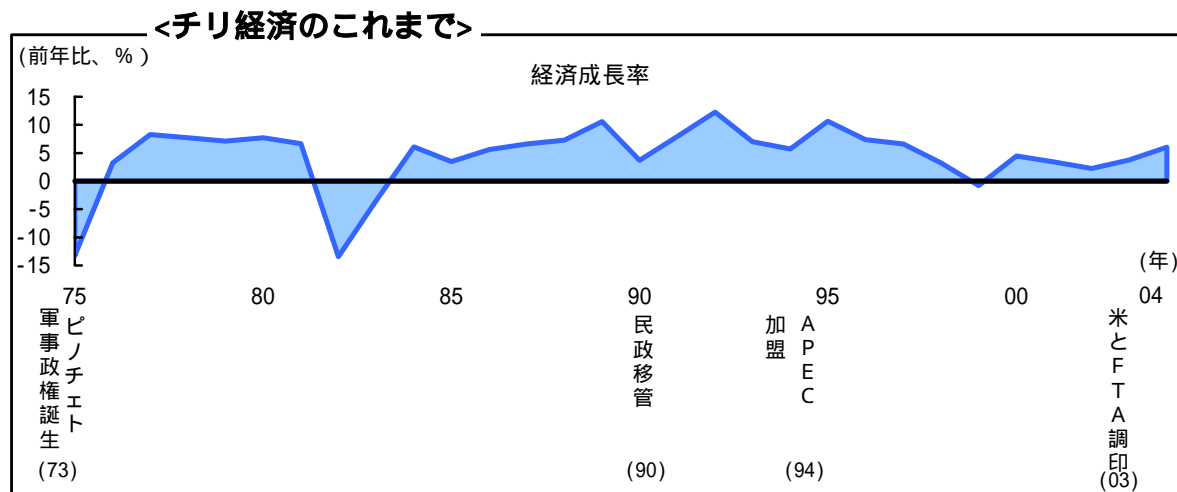


&lt;2004年&gt;

人口	1,596 万人 (日本の約 1 / 8)	財政会計年度	1 月 ~ 12 月
一人当たり GDP	5,899 ドル	為替制度	変動相場制
産業構造 (GDP 構成比)	1 次産業 5.8 % 2 次産業 43.2 % 3 次産業 51.0 %	通貨	ペソ 1 米ドル = 609 ペソ
		面積	75.7 万 km <sup>2</sup> (日本の約 2 倍)



チリの主要経済指標

		93~02年	2003年	2004年	2005年			民間機関
					中央銀行	ECLAC	IMF	
実質 GDP	前年比%	4.7	3.7	6.1	5.8	6.0	6.1	実質 GDP
鉱工業生産	同上	2.4	2.7	-	-	-	-	2005年
消費者物価	同上	6.4	2.8	1.1	2.8	-	2.5	平均 5.5
失業率	%	7.7	8.5	8.8	-	-	-	最大 6.0
経常収支	億米ドル	18.6	11.0	13.9	-	-	9.4	最小 4.5
(GDP比)	%	( 2.8)	( 1.5)	( 1.5)	-	-	( 0.9)	( 5 社 )
財政収支	億米ドル	5.2	6.0	-	-	-	-	
(GDP比, 年度)	%	( 0.6)	( 0.8)	-	-	-	-	
政府債務残高	億米ドル	110.5	110.9	-	-	-	-	
(GDP比, 年度末)	%	( 17.1)	( 15.1)	-	-	-	-	

(備考) チリ中央銀行、チリ国家統計局、チリ大蔵省、IMF "International Financial Statistics"。見通しの中央銀行 "Monthly Survey on Expectation" (2005年5月)、IMFは "World Economic Outlook" (2005年4月)、ECLAC (国連ラテンアメリカ・カリブ委員会)は "Preliminary Overview of the Economies of Latin America and the Caribbean" (2004年12月)。

**<2004 ~ 2005年の経済>**

2004年の経済成長率は、前年比6.1%の高成長となった。これは、アジアを中心とする旺盛な銅需要に支えられ輸出が増加したことや、設備投資を中心とした内需によるものである。

2005年は、引き続き銅を中心とした輸出の伸びと、設備投資を中心に内需が堅調に推移することなどにより、6%程度の経済成長が見込まれている(中央銀行見通し5.8%、ECLAC見通し6.0%、IMF見通し6.1%、民間機関5社平均見通し5.5%(2005年5月時点))。リスク要因としては、原油価格の高騰によるインフレ圧力の上昇や輸出の約5割を占める銅の価格動向等が挙げられる。